

Las Musas

y Guerin

独自のな世界観で常に映画を挑発しつづける、
新作『ミューズ・アカデミー』の公開を記念して、
スペインの映像作家J.L.G.
その傑作10作品を一挙上映！
ゲリンの描く、美しき女性たちの肖像画。

ホセ・ルイス・ゲリン 監督特集上映

<http://mermaidfilms.co.jp/muse/>

ミューズとゲリン

『ベルタのモチーフ』『思い出』『イニスフリー』『影の列車』『工事中』『シルビアのいる街で』
『シルビアのいる街の写真』『ゲスト』『アナへの2通の手紙』『ある朝の思い出』『サン・ルイ大聖堂の奴隷船サフィール号』

提供: マーメイドフィルム | 配給: コピアポアフィルム | 宣伝: VALERIA | 後援: スペイン大使館 | セルバンテス文化センター東京

2017年1月7日(土) — 1月29日(日)

Proyección Especial de José Luis Guerin

バルセロナ大学ピント教授の講義、

「ミューズ・アカデミー」は、

現代のミューズ(女神)を探る画期的な授業、

のはずだった。

だが教授と女たちの対話は、

やがて芸術論議から

自分たちの恋愛問題へと発展し……。

はたしてミューズとは何なのか？

教え子のひとりと言う、

愛の女神の
美とミューズ
「美はすべてじゃないわ——」
いたずら

ホセ・ルイス・ゲリン 監督(『シルビアのいる街で』)最新作

ミューズ・アカデミー

un film de José Luis Guerin LA ACADEMIA DE LAS MUSAS

監督・脚本・撮影: ホセ・ルイス・ゲリン | 2015年 | スペイン | 96分 | デジタル | スペイン語・イタリア語・カタルーニャ語 | 原題: La Academia de las Musas

日本語字幕: 高内朝子 | 字幕監修: 岡本太郎 | 提供: マーメイドフィルム | 配給: コピアポアフィルム | 宣伝: VALERIA

後援: スペイン大使館 | セルバンテス文化センター東京 | イタリア文化会館 | <http://mermaidfilms.co.jp/muse/>

2017年1月7日(土) — 1月29日(日)

P.C. GUERIN & ORFEO FILMS

監督・脚本・撮影:ホセ・ルイス・ゲリン | 2015年 | スペイン | 96分 | デジタル | スペイン語・イタリア語・カタルーニャ語

ミューズ・アカデミー



ピント教授の「ミューズ・アカデミー」が提案する、文学と恋愛の奇妙な関係

ゴダールにとってのアンナ・カレーナ、小津安二郎にとっての原節子、ウォーホルにとってのイーディ、そしてダンテが熱烈に愛したベアトリーチェ。古より、多くの優れた芸術の裏には、いつもその創作欲を奮い立たせる輝かしいミューズ（女神）の存在があった。バルセロナ大学の教室で、イタリア人のピント教授は、現代のミューズ像を探るべく「ミューズ・アカデミー」を開講する。それは、詩を通じて世界を再生させる画期的な授業だった。だが高尚な文学や芸術を語る場であったはずの教室で、教師と生徒の果てない議論は、予期せぬ場所へと向かっていく。一方、教授の妻は「恋愛は文学が捏造したもの」だと言い、夫のミューズ像を強く否定する。映画にはどこかで聞いたことがあるような痴話げんかや嫉妬の言葉があふれ、やがて私たちは、教授と教え子たちの関係が変わる瞬間を目撃することになる。果たして「ミューズ・アカデミー」の行き着く先は、文学の新しい未来か？ それとも彼ら自身の恋愛物語か？ 言葉とまなざしが交錯する教室で、美と愛の講義が始まる。

カメラのレンズを通して、外部と内部をへだてるガラスの窓、こしにのぞき見をするように、あるいはどこかで読んだことのある様々な言葉を介して、幾つもの映画と愛の記憶を、ホセ・ルイス・ゲリンは語るのだが、それは、見る者たちの共感の混じった笑い（時に失笑）を誘う。ルイス・ゲリンの映画には、いつも、驚かされるのだが、『ミューズ・アカデミー』とは――

まず、タイトルから、ギョッとさせられるのではないか――

金井美恵子

小説家



2015年度
セビリア・ヨーロッパ映画祭(スペイン)
金ヒラルデージョ賞

2016年度
トロムソ国際映画祭(ノルウェー)
ドン・キホーテ賞

2016年度
カルタヘナ国際映画祭(コロンビア)
最優秀劇映画監督賞



女生徒³

「私に、あなた(男)を変えろと言うの?」



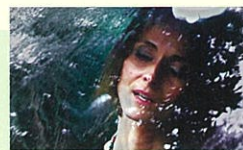
「美神」^{ミューズ}を語るのであれば、イタリア語でなくてはなるまいというかのようになり、ゲリンは、現代のバルセロナにまぎれイタリア語を響かせる。その響きがやがて日々のスペイン語と混じり合い、ドキュメンタリー的と思われたものが、いつしかフィクションとわがちがたく結ばれてしまふ。そのサスペンス豊かな混濁が見るものを途方もなく魅了する。

蓮實重彦

映画評論家

ミューズとは……

ギリシャ神話で音楽・舞踏・学術・文芸を司るとされる女神。作家にとって、作品にインスピレーションを与える女性の存在のことを、しばしばミューズと呼ぶ。イタリアの詩人ダンテが9歳の頃に一目惚れした運命の女性ベアトリーチェや、同じくイタリアの詩人ペトルルカが熱烈に愛した謎の女性ラウラなど、ゲリンの映画には、文学者にとってのミューズの存在がよく登場する。



女生徒²

押しつけるの?」



女生徒¹「それは単なる性欲の話では?」

教授「ミューズ。それは、男に賞賛の気持ちを抱かせることができる女性たちの姿だ」

フィクションとドキュメンタリーの境目を漂う 本作は、知的なのにどこかユーモラス

『シルビアのいる街で』が日本でも大きな話題を呼んだホセ・ルイス・ゲリンは、映画のありかたそのものを問う斬新な作品で、いつも私たちに驚かせてくれる。新作『ミューズ・アカデミー』でゲリンが試みるのは、実際の大学教室でくりひろげられる授業風景と、そこから派生する彼らの私生活のドラマトを見事に交差させること。ゲリンは本作をフィクションだと言う。だがカメラが捉えたのは、ドキュメントかと思わせるほごリアルな人間関係。監督は、「これまでつくったなかでもっとも力強い映画で、自分でつくった作品に驚かされた」と語る。ピント教授と女たちの白熱する議論は、知的なのにどんでもなくユーモラスで、またときにエロティックな展開さえ生み出す。スペイン語とイタリア語、カタルーニャ語が入り乱れる映画には、ギリシャ神話の恋人たちから実在の詩人に大きな影響を与えた女性たちまで、数多くのミューズたちが登場。現代のドラマとともに、ヨーロッパ古典文学のなかのミューズ像についても思いをはせる、見たことのない斬新なフィクション・ドキュメンタリー!



ホセ・ルイス・ゲリン監督特集上映

ミュージズとゲリン

上映作品

2012年に開催され大好評を博した「ホセ・ルイス・ゲリン映画祭」から5年。最新作『ミュージズ・アカデミー』とともに、前回の映画祭では上映されなかった貴重な短編映像作品を加えたゲリンの珠玉の映像作品11作品(長編7本+中短編4本)が再びスクリーンに戻ってきます。

F シルビアのいる街の写真

Unas fotos en la ciudad de Sylvia



監督・脚本・撮影:ホセ・ルイス・ゲリン | 2007年 | スペイン | 67分 | モノクロ | スタンド | デジタル | 言語:スペイン語・英語・フランス語(字幕のみ)

●たった一度だけすれ違った、見知らぬ女性の幻影に囚われる男たち。それは、ダンテにのっぺアトリーチェ、ペトラルカにのっぺのラウラと同じく、ひとりの女性への絶対的な妄執の物語だ。『シルビアのいる街で』より前に用意された本作は、ゲリンが私的な記録として撮りためた写真素材を使ってつくられた無声映画。ストラスプール、フィレンツェ、アヴィニョンへの旅の記録とともに、静止写真と言葉による空想的物語が語られていく。ここでは、詩人ゲーテが恋したストラスプールの女性、ゲリンの友人で映画批評家のミゲル・マリアスがマドリッドで出会った女性についての物語も語られる。

A ベルタのモチーフ

Los motivos de Berta



監督・脚本:ホセ・ルイス・ゲリン | 撮影:ヘラルド・ゴルメサノ | 1983年 | スペイン | 120分 | モノクロ | ヴィスタ | デジタル | 言語:スペイン語

●ゲリンが若年23歳で製作した長編第一作。1984年に公開されたものの、その後、2012年「ホセ・ルイス・ゲリン映画祭」でニュープリントが焼かれるまで、長い間上映の機会に恵まれなかった幻の処女作。セゴビアの辺鄙な農村地方を舞台に、孤独な少女ベルタと、空想上の妻を愛する精神を病んだ男デメトリアの奇妙な交流を描く。幻想の中に生きる男との出会いは、思春期の少女にとってあたかも通過儀礼のように消化されていく。どこかビクトル・エリセの映画を想起させる幻想的な少女映画。外国人の映画女優役で、エリック・ロメール映画の常連女優アリエル・ドンバールが出演している。

G ゲスト

Guest



監督・脚本・撮影:ホセ・ルイス・ゲリン | 2010年 | スペイン | 133分 | モノクロ | ヴィスタ | デジタル | 言語:スペイン語・英語・中国語・フランス語・イタリア語・アラビア語

●2007年9月から2008年9月まで、『シルビアのいる街で』で参加したベネチア国際映画祭を皮切りに、世界各国の映画祭や上映会を訪問する映画作家ゲリンの1年間にわたる旅日記映画。題名は、映画祭関係者に配布される通行証の英語表記に由来する。一時滞在者としてイタリア、フランス、コロンビア、チリ、キューバ、中国など様々な国を訪れた作家は、市井の人々の活気あふれる姿を小型カメラで記録する。街中のデモで声をあげる市民や世界の終末を説く伝道師、人生を語る街角の詩人など、多種多様な人々が登場。映像は日付順に並ぶが、実際には編集によって創作的に時系列が入れ変えられている。

B イニスフリー

Innisfree

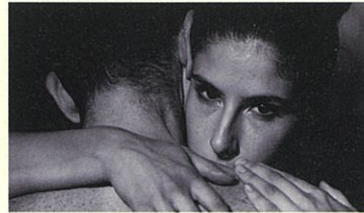


監督・脚本:ホセ・ルイス・ゲリン | 撮影:ヘラルド・ゴルメサノ | 1990年 | スペイン・フランス・アイルランド | 108分 | カラー | スタンド | デジタル | 言語:英語・ゲル語

●ジョン・フォード監督『静かなる男』(1952)のロケ地となったアイルランドのコング村で撮られたドキュメンタリー映画。フォードの映画では架空の村「イニスフリー」として登場した村に約1か月間滞在したゲリンは、映画に映された風景の現在の様子や、地元の人々の生活、村の地理や歴史を映しとり、『静かなる男』へのオマージュとして新たな物語をつくりだす。劇中では、映画に出演した村人たちの製作裏話も披露され、フォードやジョン・ウェインのファンを喜ばせてくれる。また『静かなる男』の映像や、W・B・イエイツの詩「イニスフリーの湖島」の朗読も引用される。

H アナへの2通の手紙

Dos cartas a Ana



監督・脚本:ホセ・ルイス・ゲリン | 撮影:アルバロ・フェルナンデス・ブイグ | 2010年 | スペイン | 28分 | モノクロ | ヴィスタ | デジタル | 言語:スペイン語(ほぼ字幕のみ) | ©José Luis Guerin

●セゴビアのエステバン・ピセンテ現代美術館で発表されたインスタレーション『コリントスの女』に含まれる映像をまとめた短編作品。展示では、映画の1秒間が24コマ数であることに合わせ、10秒から3分程度の長さで24のパートに分割して映写された。大プリニウスの『博物誌』をもとに、西欧絵画における「絵画の起源」を考察した、映画と絵画をめぐる実験的な映像作品。

※「サン＝ルイ大聖堂の奴隸船サフィール号」と併映

C 影の列車

Tren de sombras



監督・脚本:ホセ・ルイス・ゲリン | 撮影:トマス・ブラデヴァル | 1997年 | スペイン | 82分 | モノクロ&カラー | スタンド | デジタル | 言語:スペイン語

●1930年のある朝、フランス北西部のル・テュイ湖でひとりのアマチュア映画作家が謎の失踪を遂げる。それから30年以上経ち、彼が遺した家族映画のフィルム断片が発見される。作家はどこへ消え、フィルムには何が映っていたのか? 過去のモノクロ映像と現在のカラー映像を交互に並べていくことで、湖周辺に漂う映画作家とその家族の亡霊たちの姿が浮かび上がる。まるでミステリーのような物語を持つ怪奇幻想映画だが、実はその物語設定も、発見されたという古いフィルムもすべてゲリンによる創作である。主に写真とフィルム映像とで構成されたロマン主義溢れる実験的作品。

H サン＝ルイ大聖堂の奴隸船サフィール号

Le Saphir de Saint-Louis



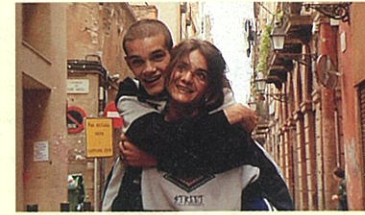
監督・脚本・撮影:ホセ・ルイス・ゲリン | 2015年 | フランス・スペイン | 35分 | カラー | スタンド | デジタル | 言語:フランス語 | ©Perspective Films

●フランス西部の港町で毎年開催されているラ・ロシェル映画祭の依頼により製作された、同地のサン＝ルイ大聖堂をめぐるドキュメンタリー作品。ゲリンは、大聖堂のチャペルにある1枚の奉納画に注目。1741年に起こった奴隸船「サフィール号」の悲劇に隠された歴史物語をひもといていく。広島国際映画祭2016で上映後、今回が初公開となる。

※「アナへの2通の手紙」と併映

D 工事中

En construcción



監督・脚本:ホセ・ルイス・ゲリン | 撮影:アレックス・ゴルトイエ | 2001年 | スペイン | 133分 | カラー | スタンド | デジタル | 言語:スペイン語

●1998年7月から12月までに行われた、バルセロナのスラム街(ラバル地区)にある集合住宅の解体作業と高級住宅建設の過程を映したドキュメンタリー映画。スペイン版『ヴァンダの部屋』(ペドロ・コスタ)とも言える題材だが、随所にゲリンらしいユーモアとロマンチズムが溢れ、ときに笑いや不思議な高揚感をもたらす。若い街娼とその恋人、元水夫で廃品回収業の老人、モロッコ出身のレンガ積み職人。カメラは、個性豊かなスラム街の住民たちの生活に寄り添い、都市郊外の変貌をリアルにとらえる。スペインでは14万5千人を動員し、ドキュメンタリー映画として異例の大ヒットを記録した。

I ある朝の思い出

Recuerdos de una mañana



監督・脚本・撮影:ホセ・ルイス・ゲリン | 2011年 | スペイン・韓国 | 45分 | カラー | ヴィスタ | デジタル | 言語:スペイン語 | ©Jeonju International Film Festival

●韓国のチョンジュ(全州)国際映画祭からの依頼で製作された「チョンジュ・デジタル・プロジェクト」(「デジタル3人3色」)の1作品。2008年1月21日、バルセロナの集合住宅の4階に住むひとりの中年男が投身自殺をする。ゲリンは、近隣の人々への取材を通して、男の生前の様子と、自殺当日の状況をカメラに映し出す。証言によって描かれる、ひとりの死者の記憶と人生。 ※「思い出」と併映

E シルビアのいる街で

Dans la ville de Sylvia



監督・脚本:ホセ・ルイス・ゲリン | 撮影:ナターシャ・ブレエ | 2007年 | スペイン・フランス | 85分 | カラー | ヴィスタ | デジタル | 言語:フランス語

●6年前に出会った女性シルビアを追い求めて、フランス国境の街ストラスプールへやってきた画家志望の青年。カフェで街行く女性たちの姿をスケッチする青年は、シルビアに似た女性を見かけあわててその後を追う。美しい街並のなかで、かつて愛した女性の面影を追う男と様々な女性たちの姿。ベネチア国際映画祭ほか多くの映画祭で上映され、映像作家ゲリンの名前を一躍有名にした代表作であり最高のミュージズ映画。前作『シルビアのいる街の写真』のアイデアを発展させた本作には、ダンテの恋愛詩『新生』へのオマージュも込められている。至福の音響世界と光溢れる画面とが見る者を魅了する。

I 思い出

Souvenir



監督:ホセ・ルイス・ゲリン | 1985年 | スペイン | 5分 | モノクロ | スタンド | デジタル | 言語:スペイン語(字幕と音楽のみ) | ©José Luis Guerin

●ゲリンが初期に撮影した、創作日記風の短編映画。フランソワーズ・アルディの『男の子と女の子』が流れるなか、海辺でたわむれるゲリンと、『ベルタのモチーフ』でベルタ役を演じたシルビア・グラシアが映されている。

※「ある朝の思い出」と併映

上映スケジュール

Schedule

上映時間	11:00	13:00	15:00	17:00	19:00	終映時刻
1月 7日[土]	ミュージズ・アカデミー	I	ミュージズ・アカデミー	H	ミュージズ・アカデミー	20:41
1月 8日[日]	I	ミュージズ・アカデミー	H	ミュージズ・アカデミー	ミュージズ・アカデミー	20:41
1月 9日[月]	H	ミュージズ・アカデミー	ミュージズ・アカデミー	E	F	20:12
1月10日[火]	休館					
上映時間	11:40	14:20	16:20	19:00		終映時刻
1月11日[水]	A	ミュージズ・アカデミー	B	ミュージズ・アカデミー		20:41
1月12日[木]	C	ミュージズ・アカデミー	E	F		20:12
1月13日[金]	ミュージズ・アカデミー	I	ミュージズ・アカデミー	ミュージズ・アカデミー		20:41
1月14日[土]	D	ミュージズ・アカデミー	A	ミュージズ・アカデミー		20:41
1月15日[日]	ミュージズ・アカデミー	H	ミュージズ・アカデミー	I		19:55
1月16日[月]	休館					
1月17日[火]	G	ミュージズ・アカデミー	F	E		20:30
1月18日[水]	D	ミュージズ・アカデミー	C	ミュージズ・アカデミー		20:41
1月19日[木]	ミュージズ・アカデミー	ミュージズ・アカデミー	G	H		20:08
1月20日[金]	A	ミュージズ・アカデミー	ミュージズ・アカデミー	I		19:57
1月21日[土]	B	ミュージズ・アカデミー	ミュージズ・アカデミー	ミュージズ・アカデミー		20:41
1月22日[日]	C	ミュージズ・アカデミー	ミュージズ・アカデミー	H		20:08
1月23日[月]	休館					
1月24日[火]	A	ミュージズ・アカデミー	B	ミュージズ・アカデミー		20:41
1月25日[水]	D	ミュージズ・アカデミー	ミュージズ・アカデミー	H		20:08
1月26日[木]	G	ミュージズ・アカデミー	C	ミュージズ・アカデミー		20:41
1月27日[金]	I	ミュージズ・アカデミー	D	ミュージズ・アカデミー		20:41
1月28日[土]	E	F	ミュージズ・アカデミー	ミュージズ・アカデミー		20:41
1月29日[日]	ミュージズ・アカデミー	H	ミュージズ・アカデミー	I		19:55

A=「ベルタのモチーフ」
 B=「イニスフリー」
 C=「影の列車」
 D=「工事中」
 E=「シルビアのいる街で」
 F=「シルビアのいる街の写真」
 G=「ゲスト」
 H=「アナへの2通の手紙」+
 「サン＝ルイ大聖堂の
 奴隷船サフィール号」
 I=「ある朝の思い出」+
 「思い出」
 *詳細については、中面の
 上映作品紹介ページを
 ご覧ください。

ブックフェア開催予定!

●ダンテ『神曲』をはじめ、本作を読み解くためには欠かせない西洋古典の世界を楽しめるブックフェアを、東京堂書店神田神保町店にて12月頃より開催いたします。詳細はHPにて

ゲリン監督来日記念「ゲリン・アカデミー」開講!

ホセ・ルイス・ゲリン監督ご本人による「ゲリン・アカデミー」を開講します。
 日時:11月17日(木) 19時~ | 場所:東京都写真美術館1Fスタジオ
 入場料金:1000円 | 定員:70名
 ご予約方法:お名前、参加人数、ご連絡先を明記の上、
 メール(jlg.muse2017@gmail.com)にてご予約ください。

art baru muse

●創作スパニッシュ&イタリアンと豊富な種類のワインを堪能できるart baru museでは、期間中に映画の半券をお持ちのお客様にハウスワインを1杯サービス!
 開催期間:1/7~1/29 18:00~24:00
 場所:渋谷区 宇田川町11-1 柳光ビル別館2F
<http://muse-tokyo.com/>

CA4LA

CA4LAにてゲリン監督がプロデュースした帽子が登場! 詳しくはHPまで
<http://www.ca4la.com/>

初日プレゼント!

●初日初回にご来場の方、抽選で10名様にナポリを代表するコーヒーメーカー「キンボ」のデカフェ(粉)を250gプレゼントいたします! 提供:モンテ物産株式会社



2017年1月7日(土) — 1月29日(日)

特別鑑賞券1回券¥1,400/2回券¥2,600発売中(税込)

劇場窓口、メイジャーネット通販(<https://www.major-j.com/>)にて発売中

当日料金:一般1,800円、学生1,500円、シニア・中学生以下・障がい者手帳をお持ちの方1,000円

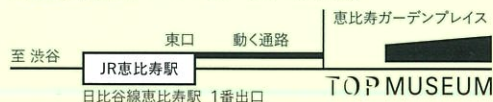
●トートバッグ付き2回券¥3,800(メイジャーネット通販のみにて販売)

※劇場窓口、メイジャーネット通販にて前売り券をお買い求めの方には特製ポストカードをプレゼント。(数量限定) ※トートバッグは上映期間中、2Fミュージアムショップにて1,800円(税込)で販売します。

恵比寿ガーデンプレイス内 東京都写真美術館ホール

〒153-0062東京都目黒区三田1-13-3
 JR恵比寿駅東口改札より徒歩7分、地下鉄日比谷線恵比寿駅より徒歩10分
 Tel. 03-3280-0099(代) <http://topmuseum.jp/>

各回定員入替制 ※1/10※、16日、23日は休館



LA ACADEMIA DE LAS MUSAS

Las Musas y Guerin: Proyección Especial de José Luis Guerin



【ホセ・ルイス・ゲリン監督より】

『ミュージズ・アカデミー』はもちろんフィクション映画ですが、本物の感情を土台とし、人生の諸断片を土台とする映画でもあります。映画は、愛や誘惑、創造、嫉妬、力の対立、教育、そして、ごまかしといった、私たちの身近にある事柄にも及んでいくのです。この映画で語られるミュージズは、私たちのまわりのそこら中にいます。ですが私は彼女たちの名前さえも知りません。彼女たちは、自分がミュージズだとはいないからです。ミュージズ、それはつまり私たちの投影によって存在する女性であり、私たちが絶対に知りえない存在なのです。



ホセ・ルイス・ゲリン

José Luis Guerin

1960年、スペイン、カタルーニャ州バルセロナ生まれ。本名はホセ・ルイス・カロッジオ・ゲリン。国際的な映画作家として活躍しながら、バルセロナにあるポンペウ・ファブラ大学(UPE)の教授もつとめている。1983年、セゴビアの辺鄙な農村で撮影した初の長編映画『ベルタのモチーフ』を監督。その後、ジョン・フォード監督の『静かなる男』のロケ地となった村を舞台にした異色の記録映画『イニスフリー』を発表し、国際的に注目を集める。その後も『影の列車』『工事中』といった劇映画や記録映画を製作。長編劇映画『シルビアのいる街で』は世界各国で話題を呼び、2008年の東京国際映画祭の上映時にはゲリンが初来日、2010年の公開時に再び来日した。この作品で多くの映画祭や上映に招かれた際の記録として旅日記風の記録映画『ゲスト』を製作。また、バルセロナ現代文化センターの展示用に製作した『メカス×ゲリン 往復書簡』やチョンジュ映画祭の依頼による『ある朝の思い出』、ラ・ロシェル映画祭の依頼による『サン＝ルイ大聖堂の奴隷船サフィール号』など、ビデオ作品やインスタレーション作品も多数手がけている。最新作『ミュージズ・アカデミー』は2015年ロカルノ国際映画祭でワールドプレミア上映され、セビリア・ヨーロッパ映画祭で金ヒラルディージョ賞を受賞、東京国際映画祭はかでも上映された。常に劇映画(フィクション)と記録映画(ドキュメンタリー)を行き来するような実験的な作風で創作活動を続ける、現代映画を代表する作家である。

監督映画作品

- 『ベルタのモチーフ』(1983年/35ミリ/120分)
- 『思い出』(1985年/16ミリ/5分)
- 『エウラリアとマルタ』(1988年/35ミリ/18分/オムニバス映画『都市生活』の1篇) ※
- 『イニスフリー』(1990年/35ミリ/108分)
- 『影の列車』(1997年/35ミリ/82分)
- 『工事中』(2001年/ビデオ&35ミリ/133分)
- 『シルビアのいる街の写真』(2007年/ビデオ/67分)
- 『シルビアのいる街で』(2007年/35ミリ/85分)
- 『ゲスト』(2010年/ビデオ&35ミリ/133分)
- 『アナへの2通の手紙』(2010年/ビデオ/28分)
- 『メカス×ゲリン 往復書簡』(2011年/ビデオ/100分/映画による往復書簡) ※
- 『ある朝の思い出』(2011年/ビデオ/45分)
- 『サン＝ルイ大聖堂の奴隷船サフィール号』(2015年/ビデオ/35分)
- 『ミュージズ・アカデミー』(2015年/ビデオ/96分)

インスタレーション作品

- 『われわれの知らない女性たち』※
- 第52回ヴェネツィア・ビエンナーレ(2007年6月~11月)、バルセロナ現代文化センター(2008年1月~3月)にて展示
- 『コリントスの女』※
- エステバン・ピセンテ現代美術館(2010年12月~2011年6月)、ボンビドーラ・センター(2012年12月~2013年1月)にて展示
- 《本作の一部を『アナへの2通の手紙』として上映します》

※印の作品は本特集では上映されません。